

蘭花  
五福  
長生

長生  
五福  
長生

長生

~ 13  
3841  
2







何  
景

何  
景

何  
景



門へ13  
號3841  
巻2

言書判別

足利簡

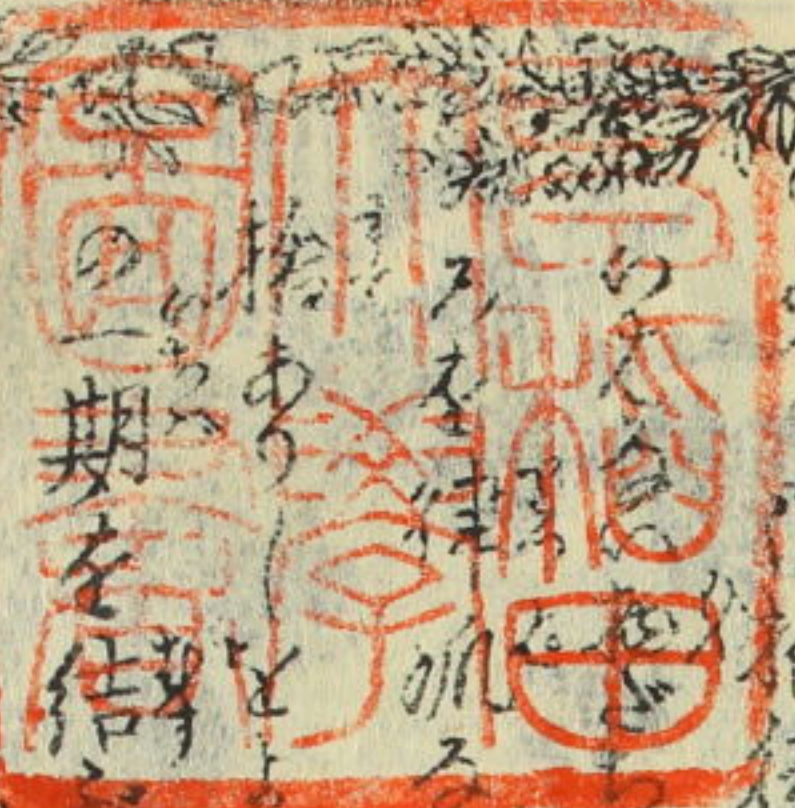
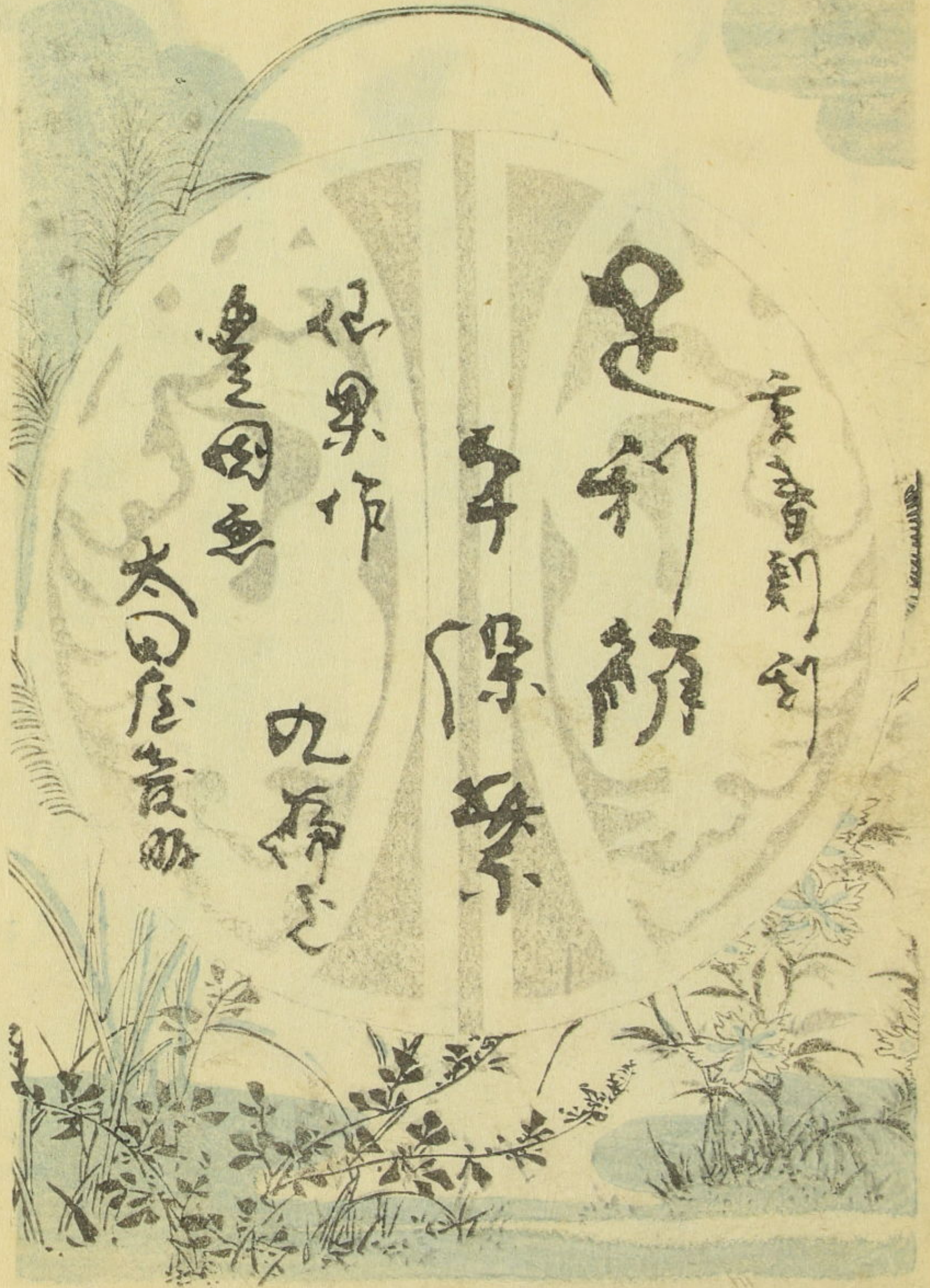
年保紫

仙果作

九條

皇田

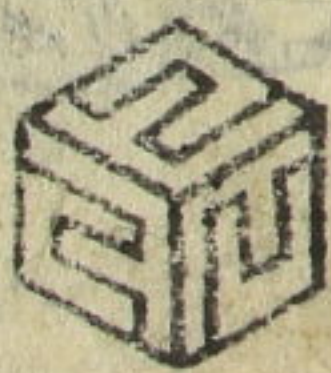
太田屋



足利簡  
仙果作  
皇田  
太田屋  
九條  
年保紫  
言書判別

辛亥立春

笠亭仙果



足利簡





藤の方昇天の期ふらも  
四十のあけつりせしまふ

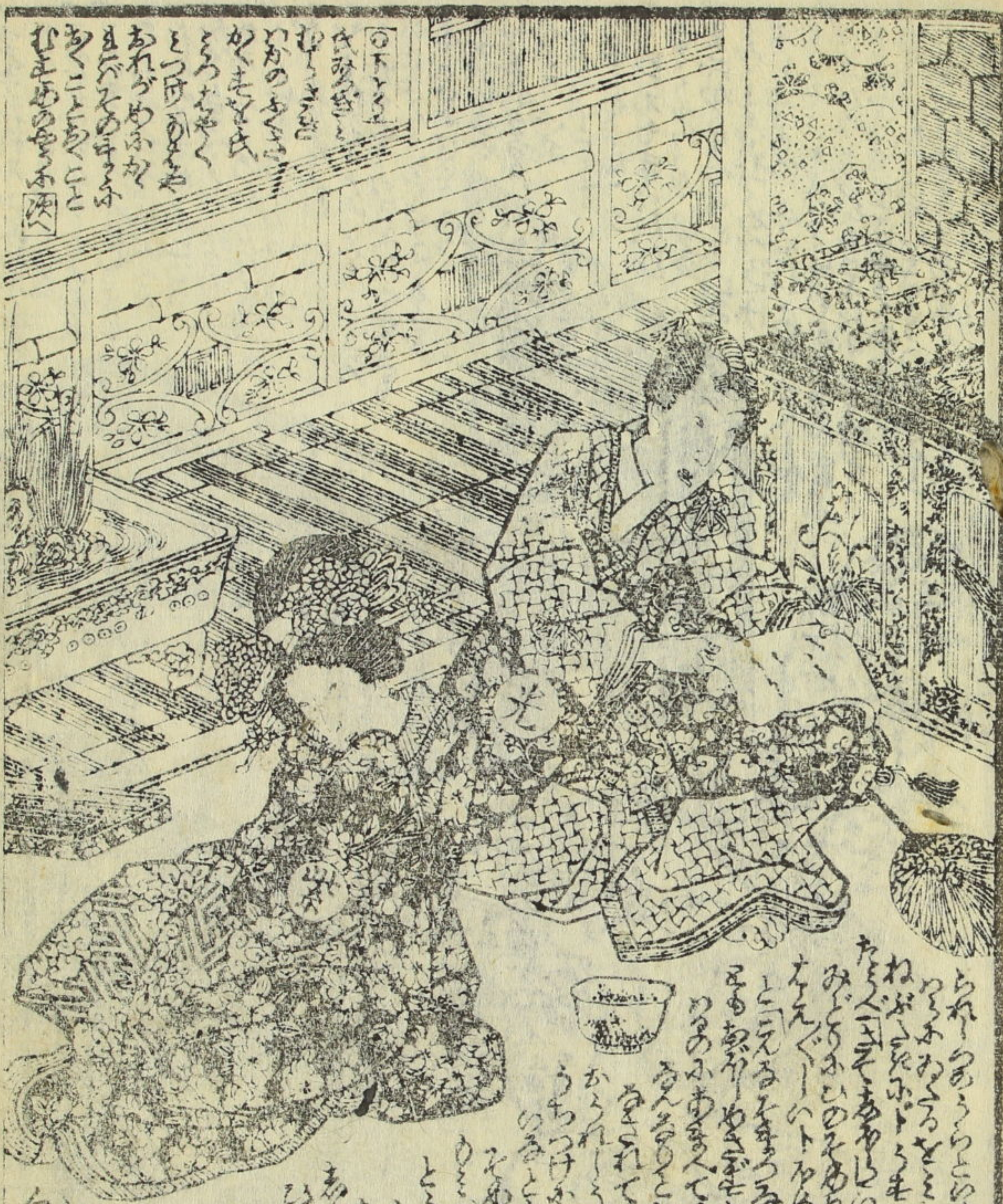


足利將軍源義植公御母

御臺  
榊頭

おのゝ





あつちのうらりこのかゝるはらりゆとや  
 つまねるをさかしののへをそ  
 ねがふはあつちのまぢやたてまぢや  
 たまにまぢやあぢいこのあぢいこの  
 みぢいこのあぢいこのあぢいこの  
 たまにまぢいこのあぢいこのあぢいこの  
 とつちのうらりこのかゝるはらりゆとや  
 つまねるをさかしののへをそ  
 ねがふはあつちのまぢやたてまぢや  
 たまにまぢやあぢいこのあぢいこの  
 みぢいこのあぢいこのあぢいこの  
 たまにまぢいこのあぢいこのあぢいこの

足利月九



あつちのうらりこのかゝるはらりゆとや  
 つまねるをさかしののへをそ  
 ねがふはあつちのまぢやたてまぢや  
 たまにまぢやあぢいこのあぢいこの  
 みぢいこのあぢいこのあぢいこの  
 たまにまぢいこのあぢいこのあぢいこの  
 とつちのうらりこのかゝるはらりゆとや  
 つまねるをさかしののへをそ  
 ねがふはあつちのまぢやたてまぢや  
 たまにまぢやあぢいこのあぢいこの  
 みぢいこのあぢいこのあぢいこの  
 たまにまぢいこのあぢいこのあぢいこの

足利月九

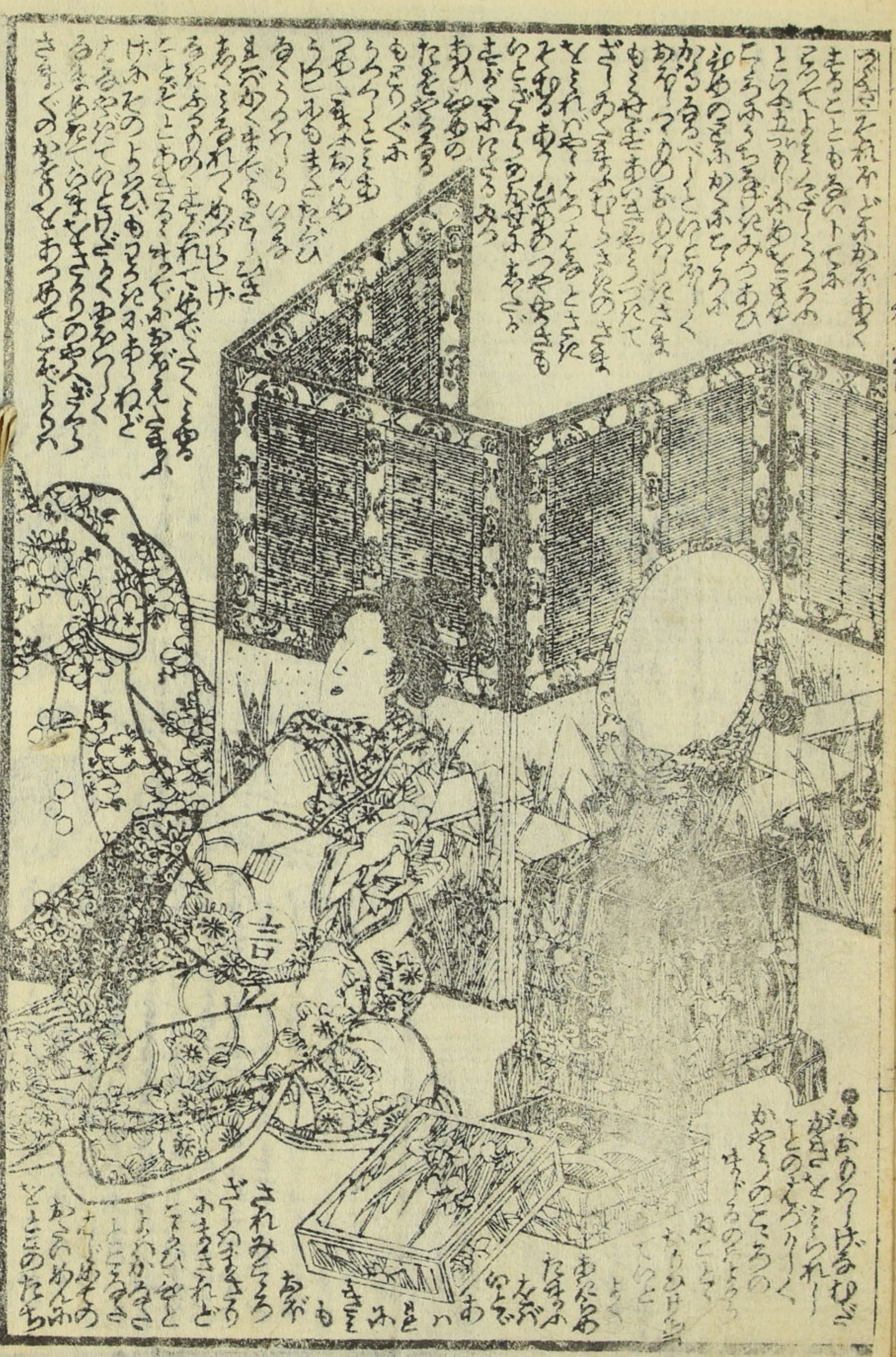




これにておのれの心づから  
 しんがらむとてあはれ  
 るるやとてあはれ  
 るるやとてあはれ  
 るるやとてあはれ

あつちのあつちのあつちのあつちの  
 あつちのあつちのあつちのあつちの  
 あつちのあつちのあつちのあつちの  
 あつちのあつちのあつちのあつちの

あつちのあつちのあつちのあつちの  
 あつちのあつちのあつちのあつちの  
 あつちのあつちのあつちのあつちの  
 あつちのあつちのあつちのあつちの

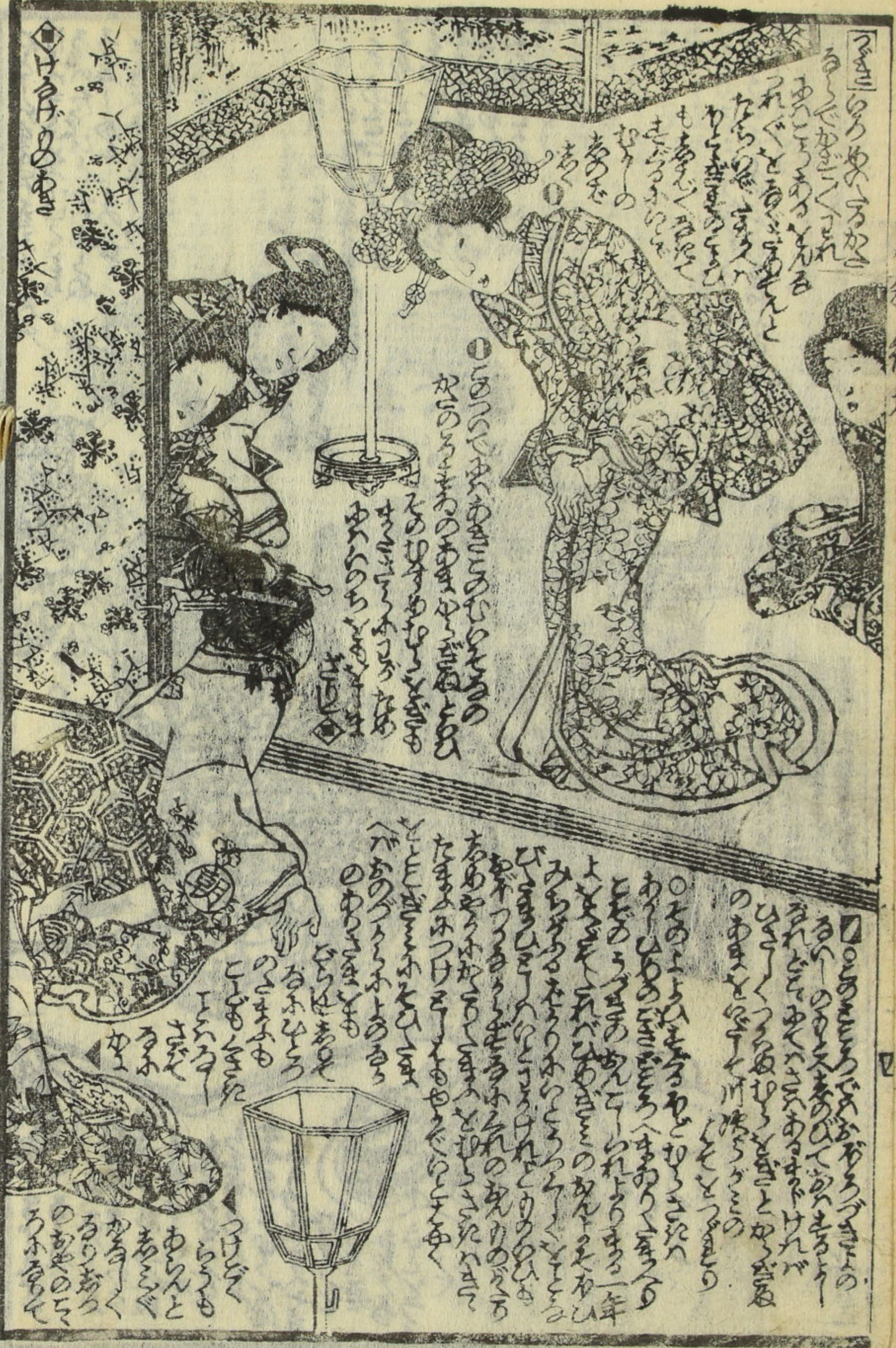
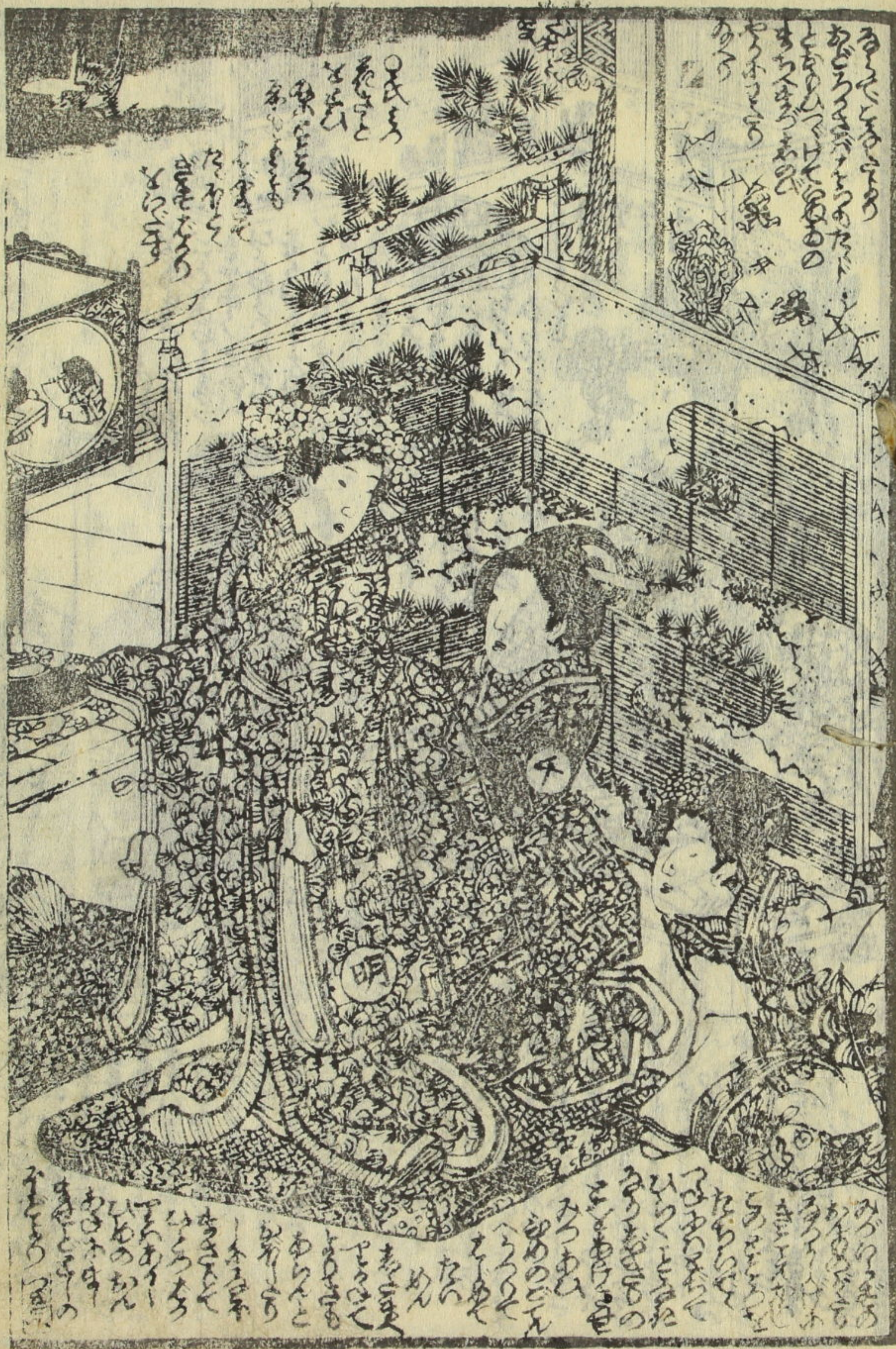


あつちのあつちのあつちのあつちの  
 あつちのあつちのあつちのあつちの  
 あつちのあつちのあつちのあつちの  
 あつちのあつちのあつちのあつちの

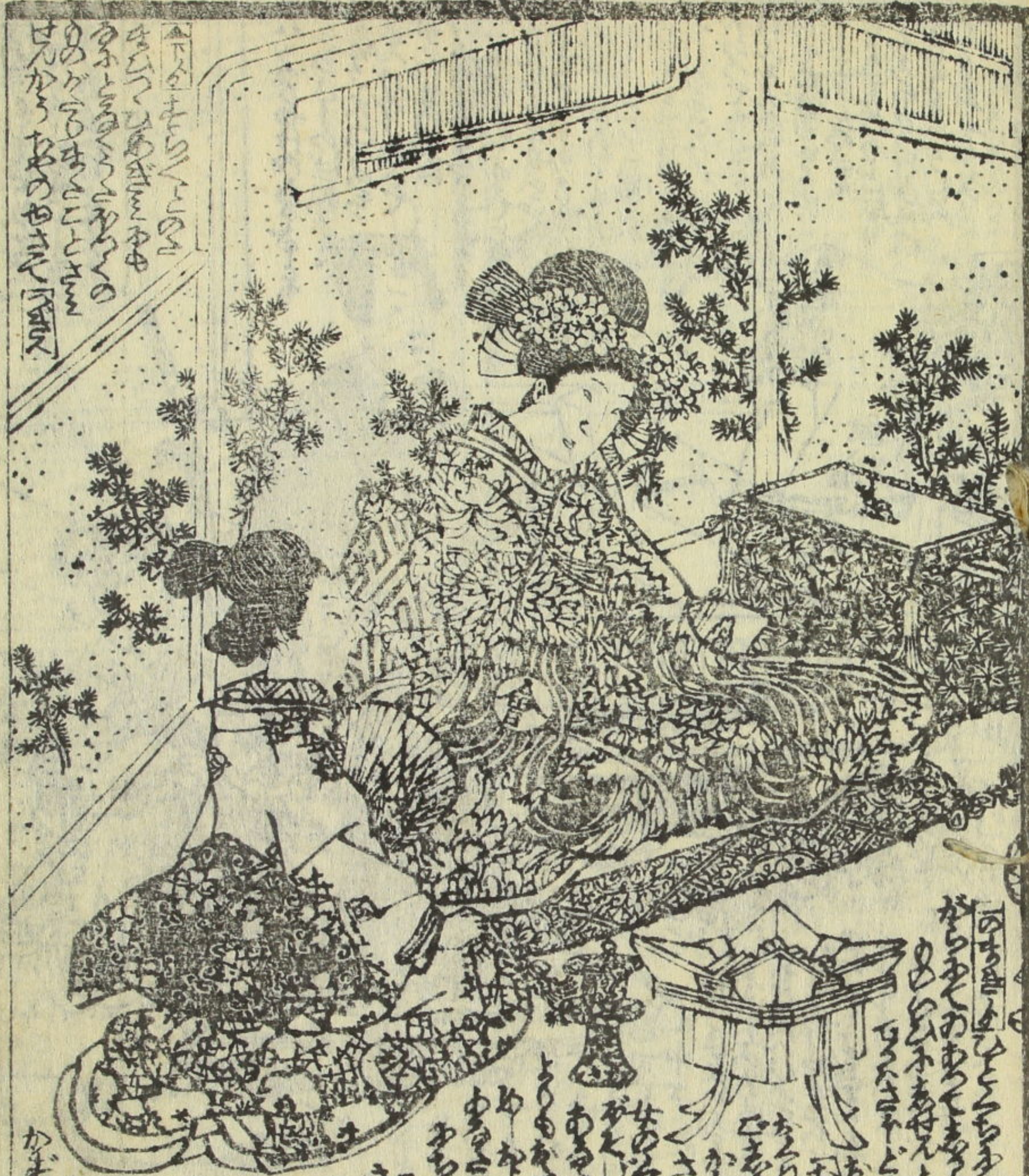
あつちのあつちのあつちのあつちの  
 あつちのあつちのあつちのあつちの  
 あつちのあつちのあつちのあつちの  
 あつちのあつちのあつちのあつちの

あつちのあつちのあつちのあつちの  
 あつちのあつちのあつちのあつちの  
 あつちのあつちのあつちのあつちの  
 あつちのあつちのあつちのあつちの









足利月九  
 足利月九  
 足利月九

かまらるらぬ  
 足利月九  
 足利月九



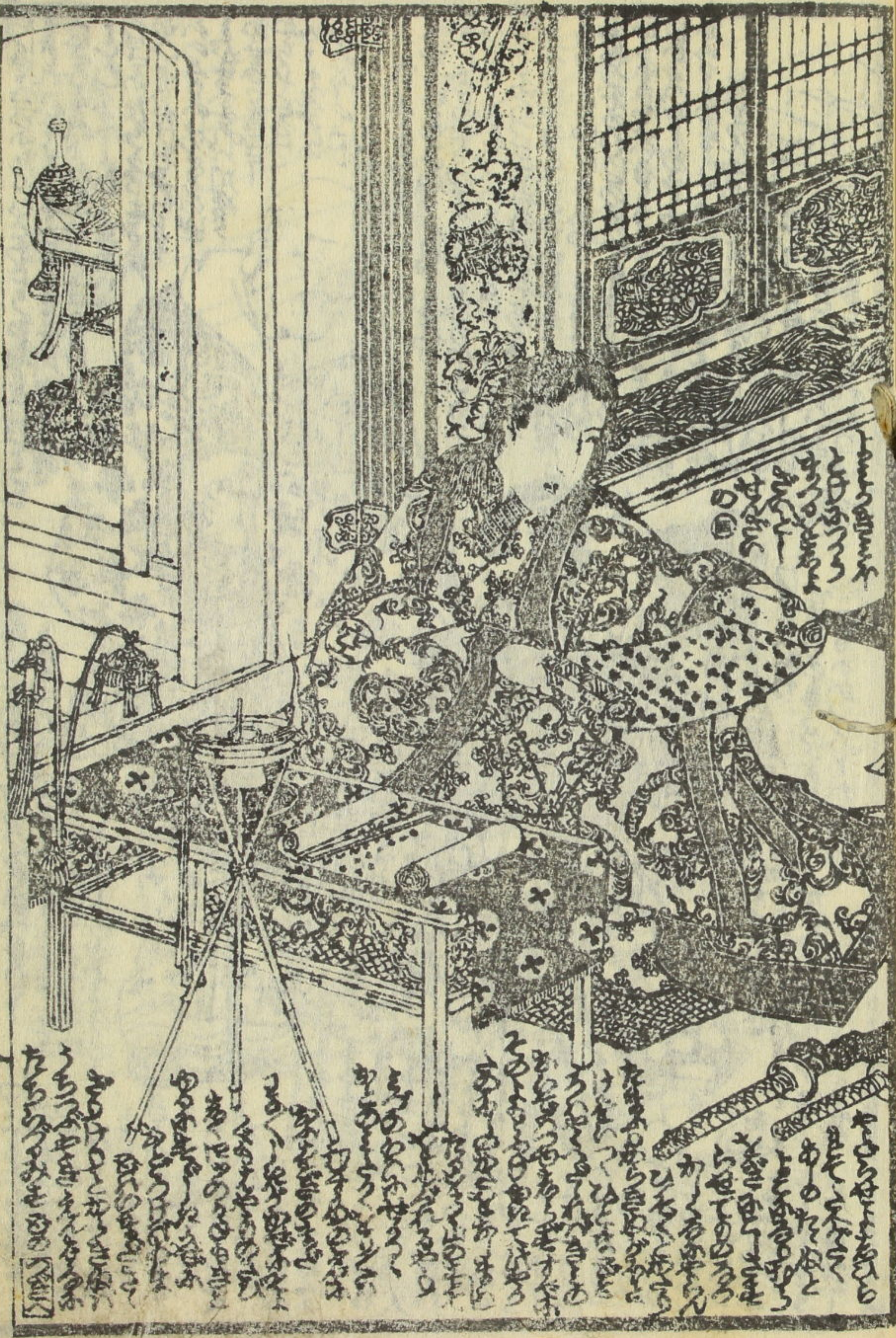
足利月九  
 足利月九  
 足利月九

足利月九  
 足利月九  
 足利月九









此間之景甚為壯麗  
 其間之人物亦極其  
 精緻其意之深遠亦  
 非筆墨所能形容也  
 其間之人物亦極其  
 精緻其意之深遠亦  
 非筆墨所能形容也  
 其間之人物亦極其  
 精緻其意之深遠亦  
 非筆墨所能形容也



此間之景甚為壯麗  
 其間之人物亦極其  
 精緻其意之深遠亦  
 非筆墨所能形容也  
 其間之人物亦極其  
 精緻其意之深遠亦  
 非筆墨所能形容也  
 其間之人物亦極其  
 精緻其意之深遠亦  
 非筆墨所能形容也





此の人物は天竺の僧侶に似て居るが、  
 衣服の形制は異なる。手に持たる籠は、  
 天竺の僧侶が持たせるものとは異なり、  
 蓋のある籠である。此の人物の所持する  
 物は、天竺の僧侶が持たせるものとは異なり、  
 蓋のある籠である。此の人物の所持する  
 物は、天竺の僧侶が持たせるものとは異なり、  
 蓋のある籠である。



此の二人は、天竺の僧侶と見られるが、  
 衣服の形制は異なる。手に持たる籠は、  
 天竺の僧侶が持たせるものとは異なり、  
 蓋のある籠である。此の人物の所持する  
 物は、天竺の僧侶が持たせるものとは異なり、  
 蓋のある籠である。此の人物の所持する  
 物は、天竺の僧侶が持たせるものとは異なり、  
 蓋のある籠である。



Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a play script or commentary, surrounding the illustration on the left page.

Vertical text on the far left margin of the left page.



Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a play script or commentary, surrounding the illustration on the right page.

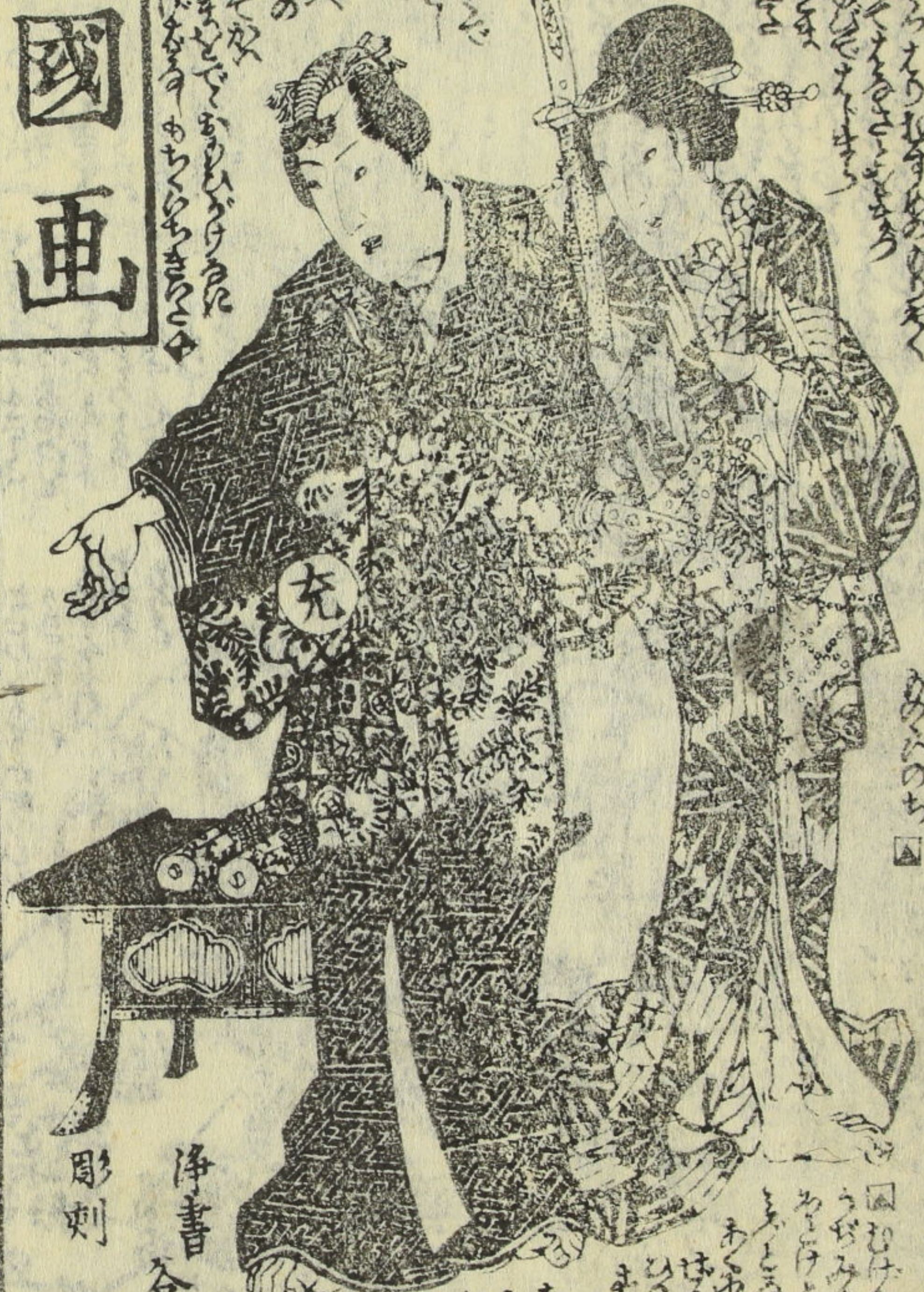
Vertical text on the far left margin of the right page.



Vertical text on the far right margin of the right page.



豊國画



仙果作

豊國画の特色は、人物の描き出しが非常に立派で、衣紋の表現も非常に緻密である。また、背景の表現も非常に簡潔で、人物の姿を際立たせている。この作品は、豊國画の代表的な作品の一つである。

浄書 谷金川  
彫刺

新刻 校正 御江戸昌平町鑑 全二冊出版  
宋字細註横本  
半紙摺薄用摺

教訓浮世めがね 全三冊  
万亭應賀作  
漢齋英泉画

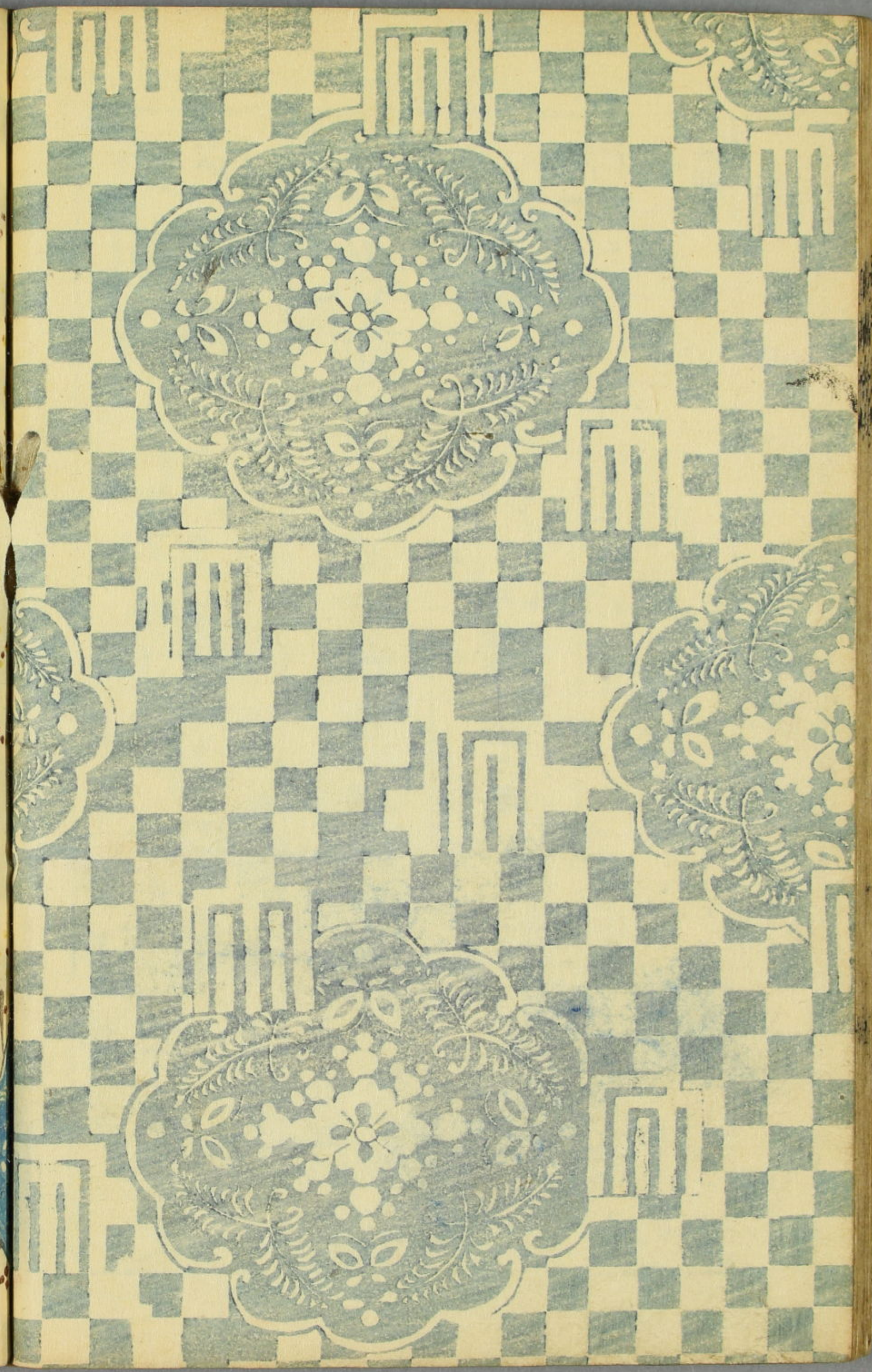
兩筋戀山道 全二冊  
万亭應賀作  
一勇齋國芳画

龜鑑浦嶋草紙 初編  
笠亭仙果技合  
柳齋琴繫作  
錦朝楼芳虎画

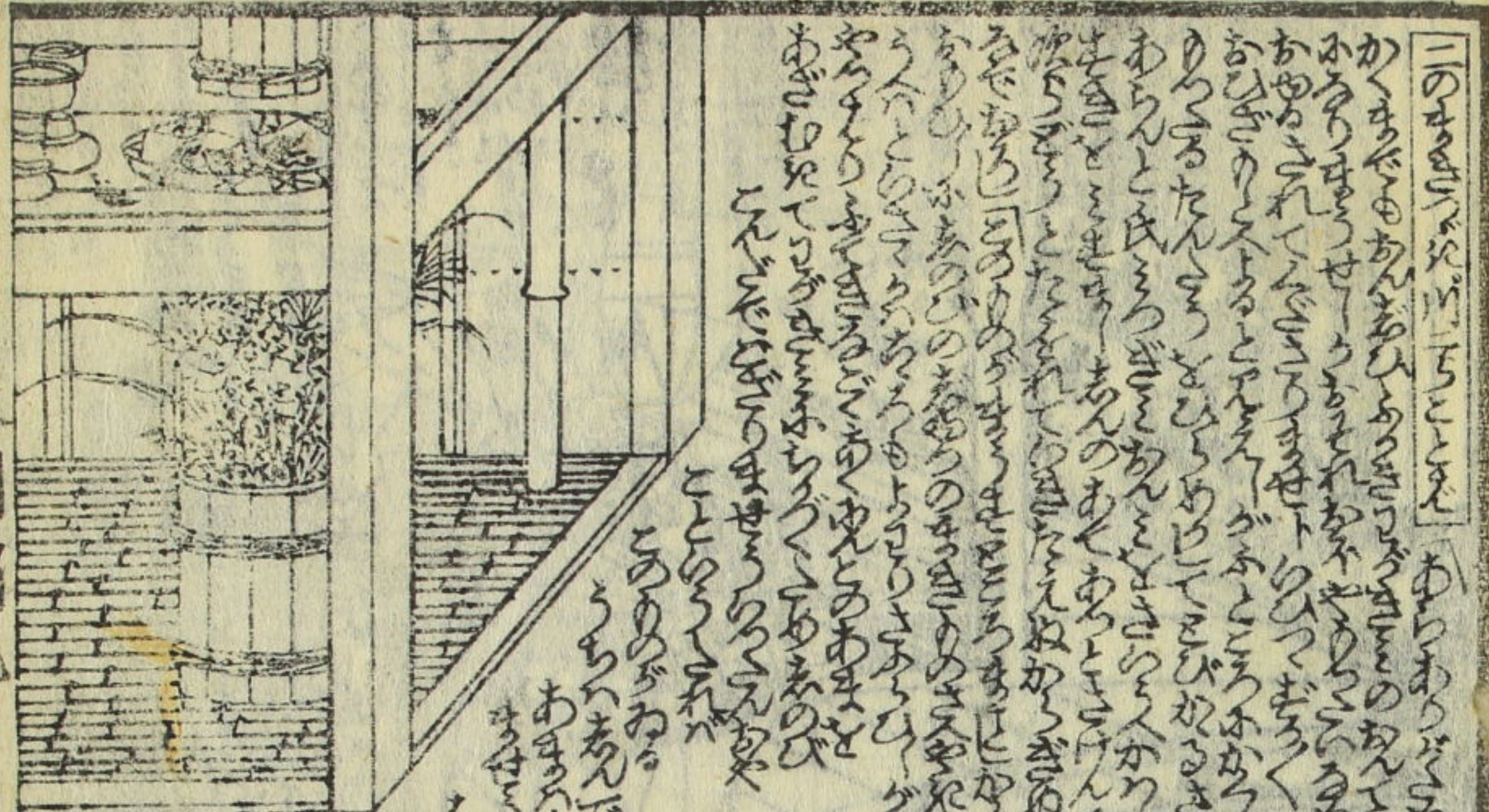
刊行書肆 東都 錦林堂

嘉永五年新彫









江戸

大正

の

下

巻

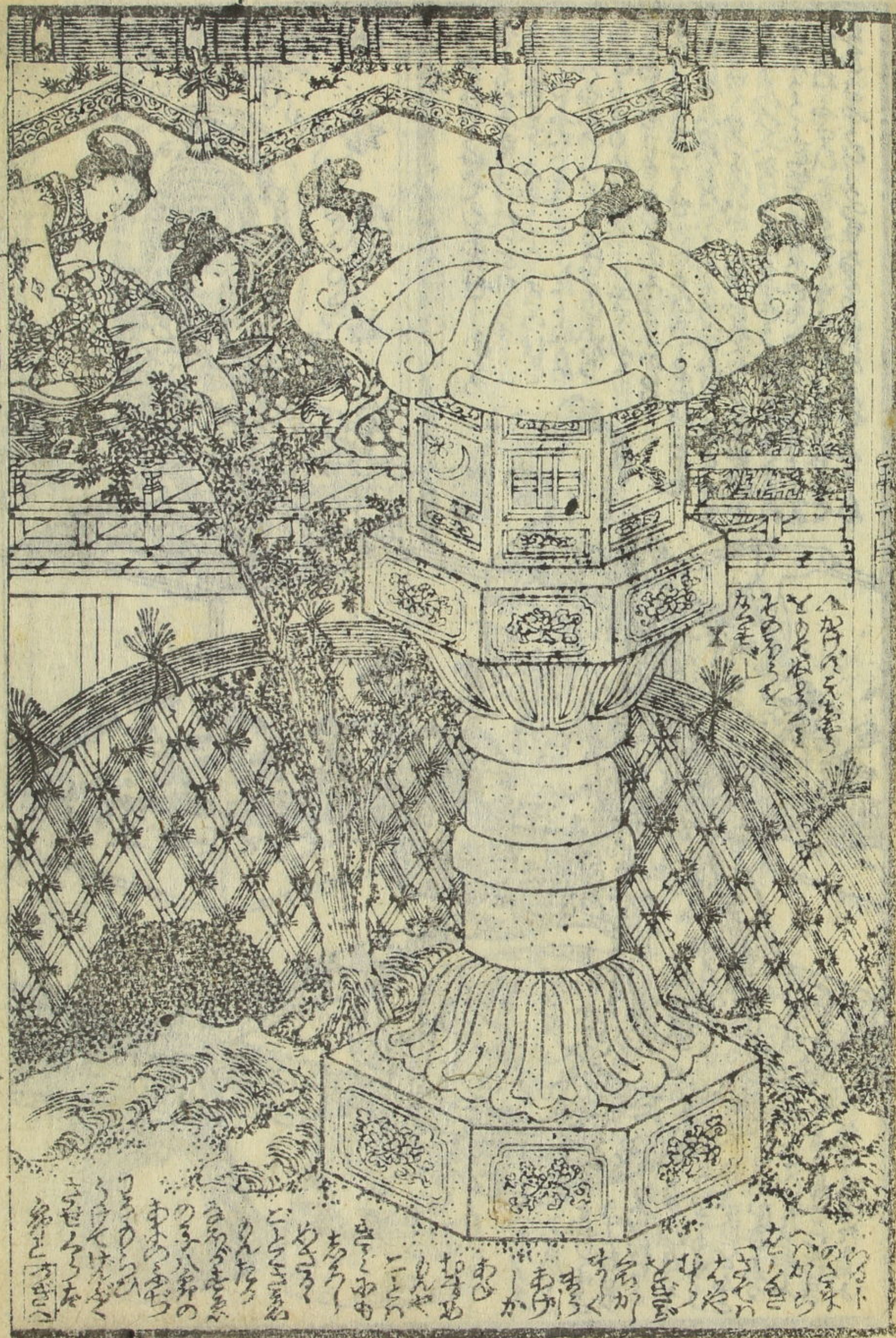
仙果伝

皇仁天皇

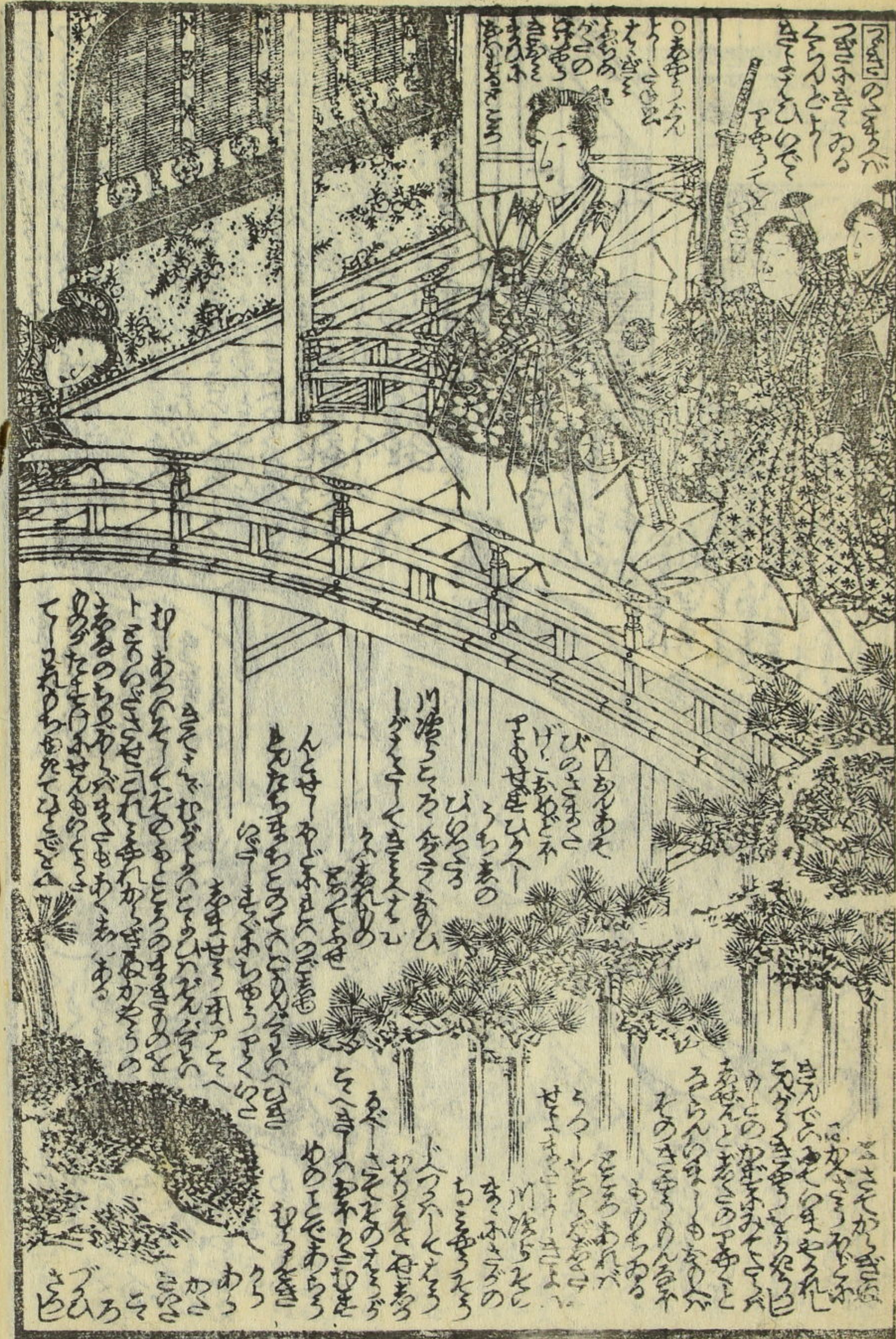
神皇正統記

皇仁天皇





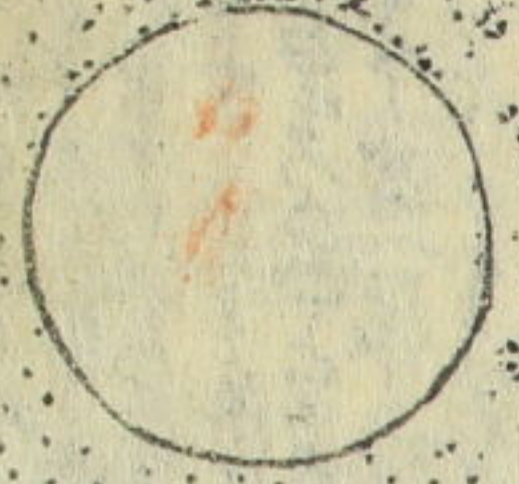
この石灯籠は、  
東の八景の  
一つとして  
名高い。其の  
形は、蓮の花  
を模して、  
上は蓮の花  
の葉、下は  
蓮の花の茎  
の如く、  
中は蓮の花  
の心、と云  
ふ。其の石  
は、白雲石  
の如き、  
光澤あり、  
堅固なり、  
故に、  
古くより、  
名匠の  
手による  
ものなり。  
其の  
高さは、  
約三丈  
あり、  
その  
周囲は、  
約一丈  
あり、  
その  
重さは、  
約一  
噸あり、  
故に、  
古くより、  
名匠の  
手による  
ものなり。  
其の  
高さは、  
約三丈  
あり、  
その  
周囲は、  
約一丈  
あり、  
その  
重さは、  
約一  
噸あり、  
故に、  
古くより、  
名匠の  
手による  
ものなり。



この女は、  
名匠の  
手による  
ものなり。  
其の  
高さは、  
約三丈  
あり、  
その  
周囲は、  
約一丈  
あり、  
その  
重さは、  
約一  
噸あり、  
故に、  
古くより、  
名匠の  
手による  
ものなり。  
其の  
高さは、  
約三丈  
あり、  
その  
周囲は、  
約一丈  
あり、  
その  
重さは、  
約一  
噸あり、  
故に、  
古くより、  
名匠の  
手による  
ものなり。



此の物語は、昔の昔に  
 ありし事なり。ある時  
 天の神は、地上に降りて  
 人々の心を探し、世の  
 成り行きを定めしむ。



此の物語は、昔の昔に  
 ありし事なり。ある時  
 天の神は、地上に降りて  
 人々の心を探し、世の  
 成り行きを定めしむ。

此の物語は、昔の昔に  
 ありし事なり。ある時  
 天の神は、地上に降りて  
 人々の心を探し、世の  
 成り行きを定めしむ。

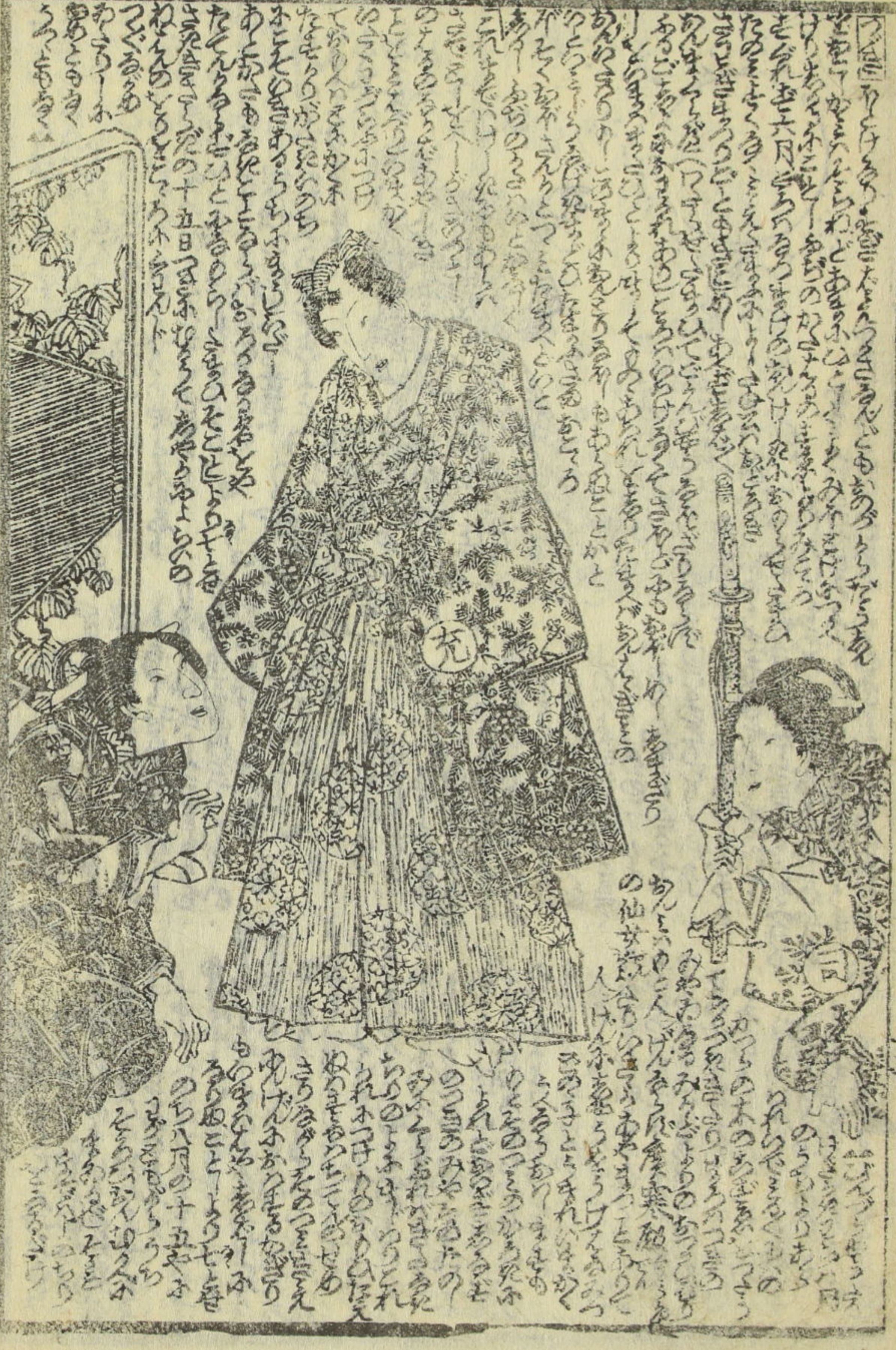


此の物語は、昔の昔に  
 ありし事なり。ある時  
 天の神は、地上に降りて  
 人々の心を探し、世の  
 成り行きを定めしむ。





花の匂い  
 春の風  
 心の中  
 ...

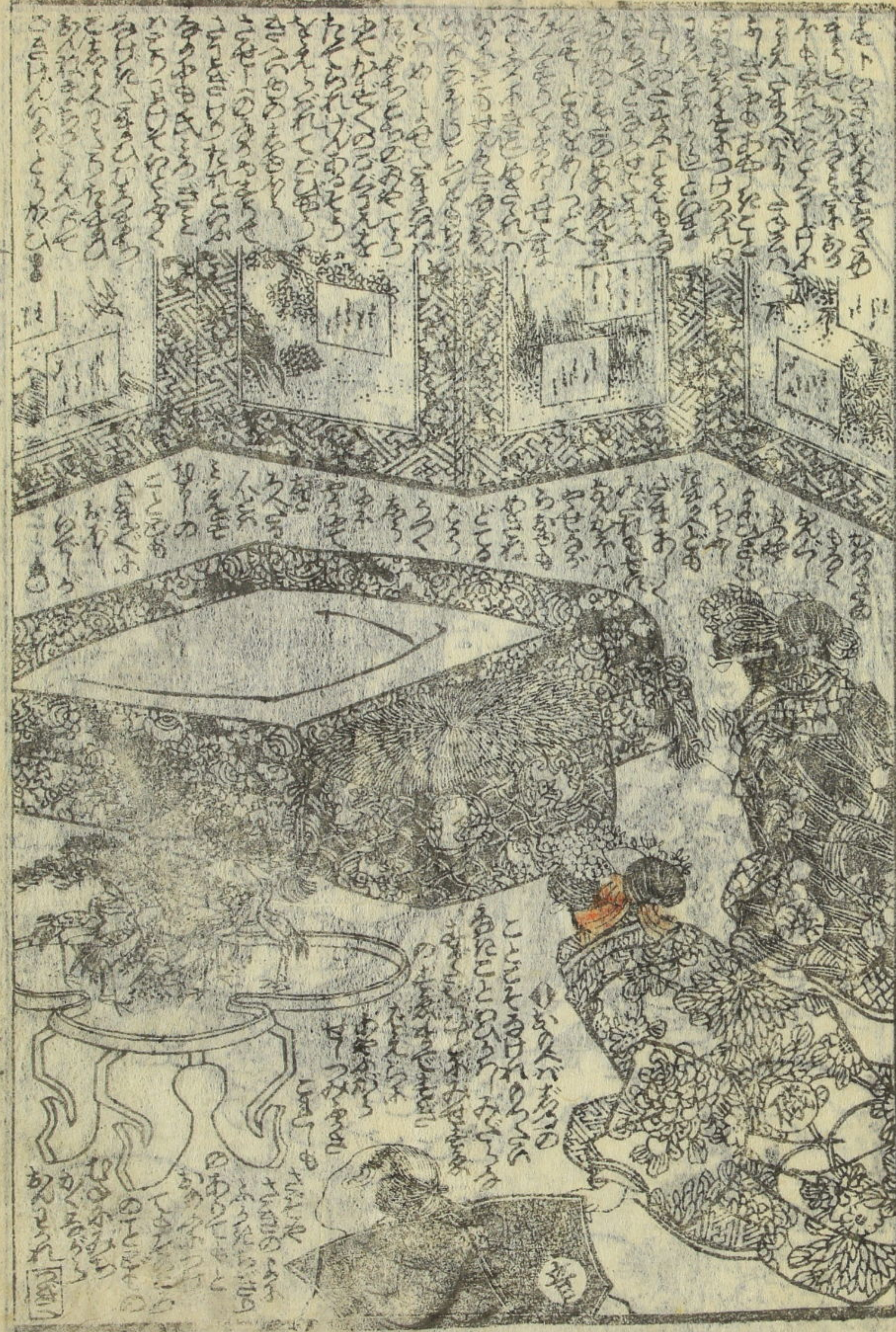


春の風  
 心の中  
 ...

春の風

春の風





Vertical text on the left margin of the left page.

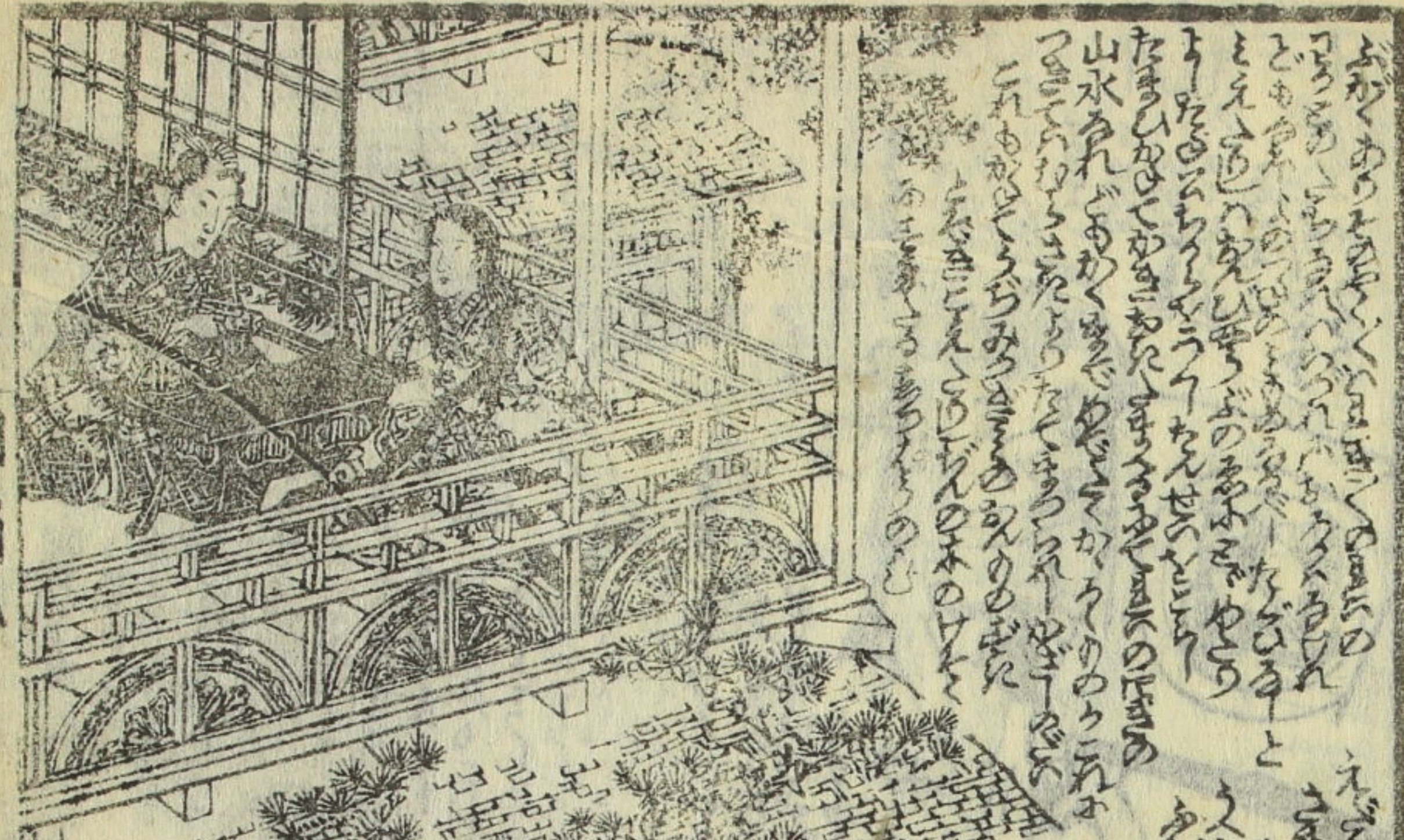


Vertical text on the right margin of the right page.

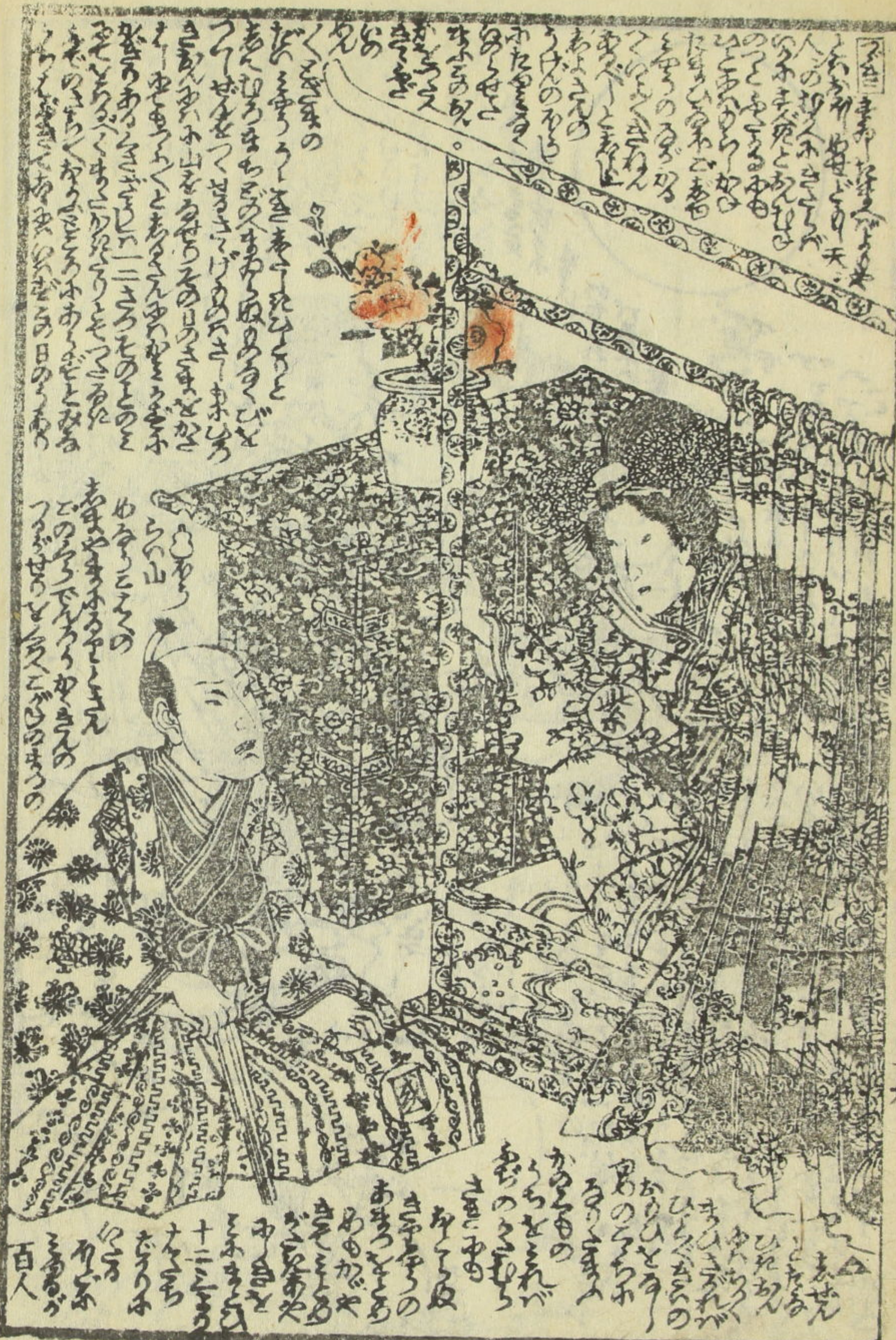








山吹のやうな花が  
 咲き出さぬやうに  
 春の空は  
 晴れ渡るやうに  
 遠くまで  
 見わたるやうに  
 心は  
 遠くまで  
 飛ぶやうに  
 空の  
 青さを  
 胸に  
 染めたいやうに  
 雲の  
 白さを  
 頬に  
 染めたいやうに  
 鳥の  
 声は  
 心を  
 癒すやうに  
 花の  
 香りは  
 心を  
 清めるやうに  
 空の  
 青さを  
 胸に  
 染めたいやうに  
 雲の  
 白さを  
 頬に  
 染めたいやうに  
 鳥の  
 声は  
 心を  
 癒すやうに  
 花の  
 香りは  
 心を  
 清めるやうに  
 空の  
 青さを  
 胸に  
 染めたいやうに  
 雲の  
 白さを  
 頬に  
 染めたいやうに  
 鳥の  
 声は  
 心を  
 癒すやうに  
 花の  
 香りは  
 心を  
 清めるやうに  
 空の  
 青さを  
 胸に  
 染めたいやうに  
 雲の  
 白さを  
 頬に  
 染めたいやうに  
 鳥の  
 声は  
 心を  
 癒すやうに  
 花の  
 香りは  
 心を  
 清めるやうに



春の空は  
 晴れ渡るやうに  
 遠くまで  
 見わたるやうに  
 心は  
 遠くまで  
 飛ぶやうに  
 空の  
 青さを  
 胸に  
 染めたいやうに  
 雲の  
 白さを  
 頬に  
 染めたいやうに  
 鳥の  
 声は  
 心を  
 癒すやうに  
 花の  
 香りは  
 心を  
 清めるやうに  
 空の  
 青さを  
 胸に  
 染めたいやうに  
 雲の  
 白さを  
 頬に  
 染めたいやうに  
 鳥の  
 声は  
 心を  
 癒すやうに  
 花の  
 香りは  
 心を  
 清めるやうに

春の空は  
 晴れ渡るやうに  
 遠くまで  
 見わたるやうに  
 心は  
 遠くまで  
 飛ぶやうに  
 空の  
 青さを  
 胸に  
 染めたいやうに  
 雲の  
 白さを  
 頬に  
 染めたいやうに  
 鳥の  
 声は  
 心を  
 癒すやうに  
 花の  
 香りは  
 心を  
 清めるやうに  
 空の  
 青さを  
 胸に  
 染めたいやうに  
 雲の  
 白さを  
 頬に  
 染めたいやうに  
 鳥の  
 声は  
 心を  
 癒すやうに  
 花の  
 香りは  
 心を  
 清めるやうに

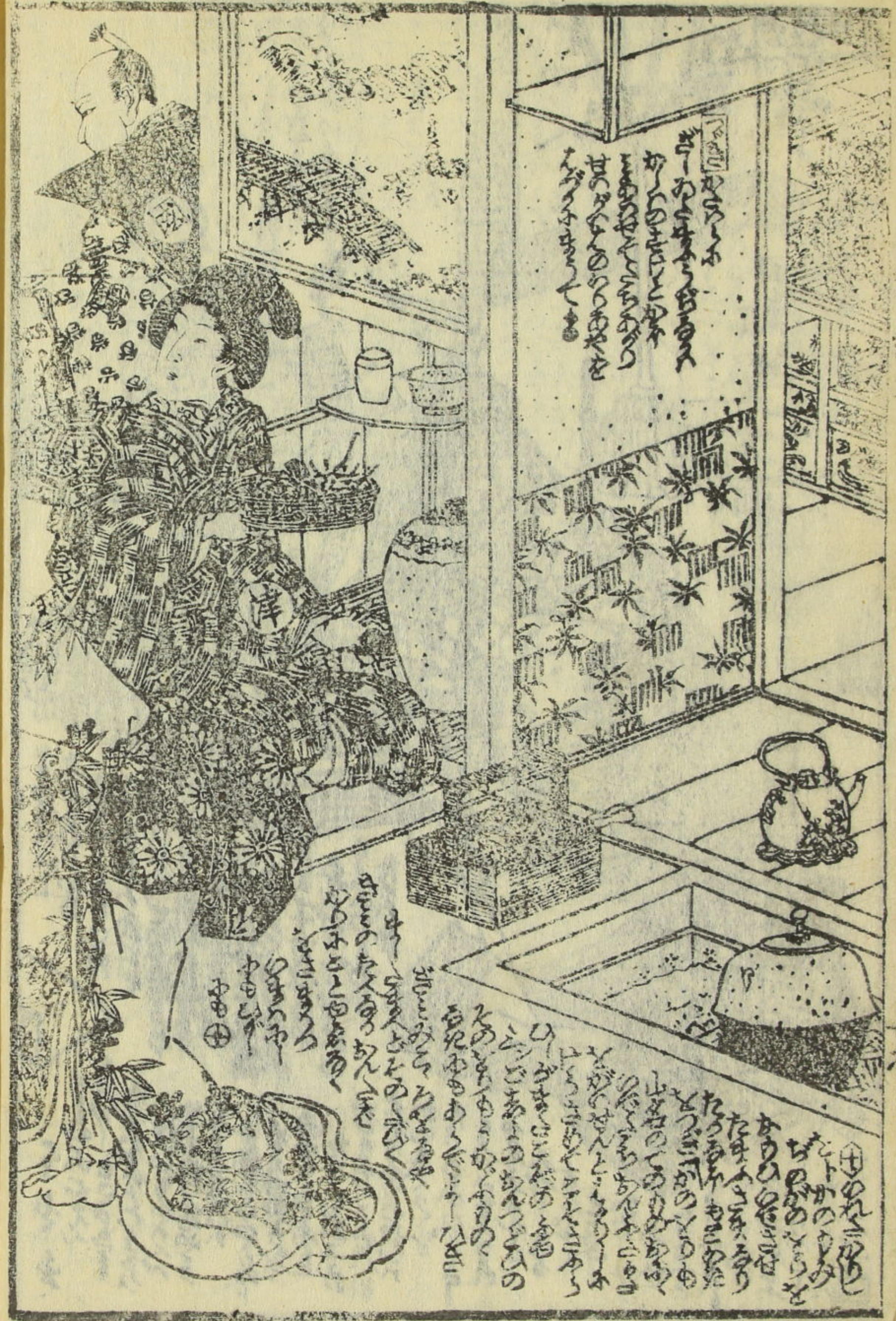
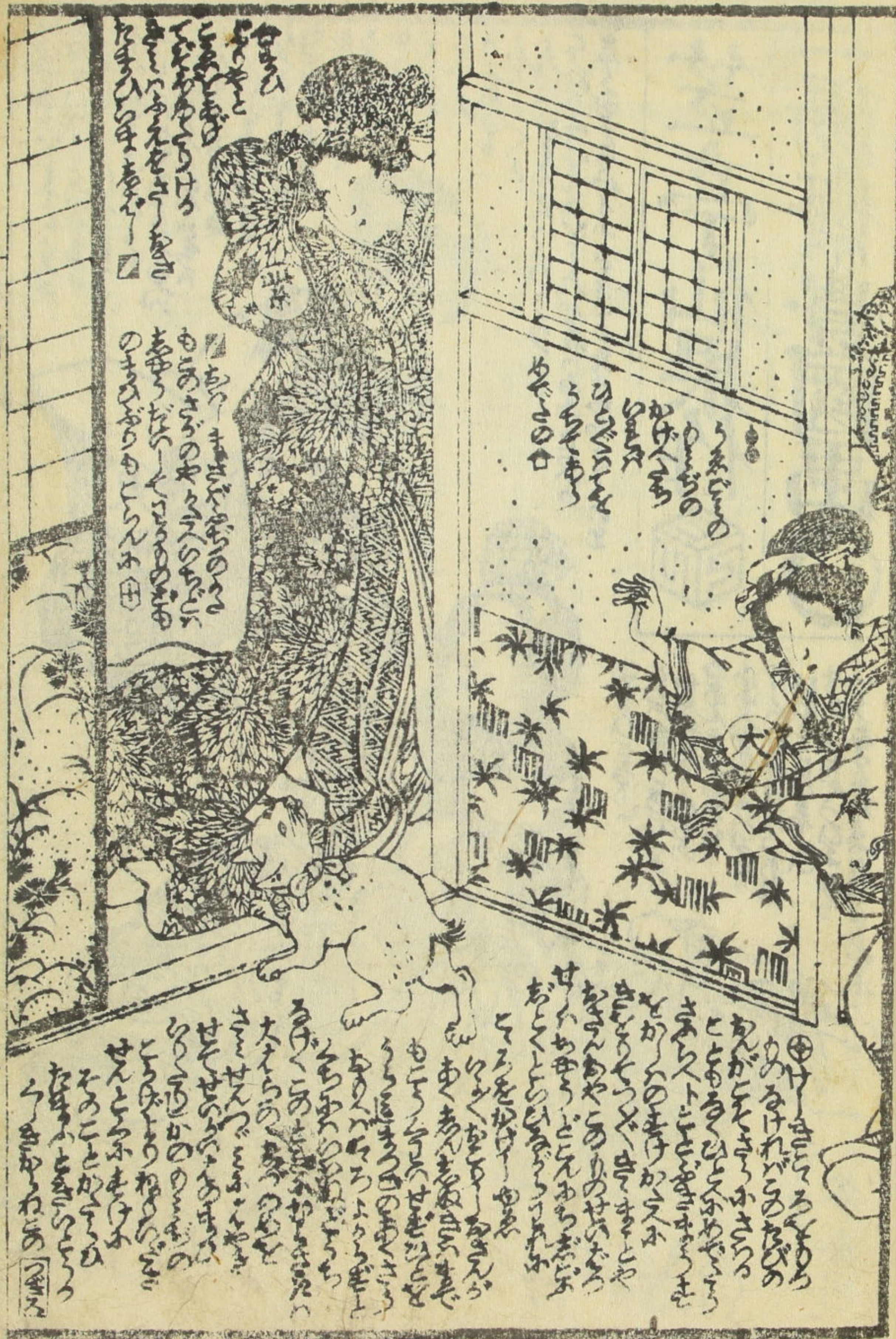














嘉永五年壬子新刊

笠亭仙果作  
一陽齋豊國画

うき世の浮き世と云ふは  
たかかひの世と云ふは  
世のあらはれぬ世と云ふは  
世のあらはれぬ世と云ふは  
世のあらはれぬ世と云ふは  
世のあらはれぬ世と云ふは  
世のあらはれぬ世と云ふは  
世のあらはれぬ世と云ふは



浄書  
谷金川

足利絹手染紫

笠亭仙果作  
一陽齋豊國画

十編より十四編まで 當子春發兌若菜の上第十三編にて  
今よりより十三編より同下りより一よりあひ姫梅之助の  
こんこん人情の極意をなすおとせの草介の巻の右より紙大書  
極

極彩色のゆかぎぬ染より大雙六

袋入  
一枚摺

これらもむかしはゆかぎぬ染の芳齋画にて御達仕はは評判  
やめくちのゆかぎぬ染にて御達仕はは評判

山崎  
奇談  
婀娜櫻  
種吉作  
芳席画

右初らゆかぎぬ染のゆかぎぬ染  
おとせも美出の中

東都神田鍛冶町二丁目  
太田屋佐吉謹白







